

療考会ニュース

2022年7月号



去る2022年6月29日(水)あいあいセンター中研修室にて
福岡市こども未来局こども発達支援課の方々による
南部療育センター開設の進捗状況についての説明と
意見交換の場が設けられました。



参加者・・・ こども未来局より、こども発達支援課
氷室課長はじめ3名、療考会からは、南部療育センターに
関する要望書を提出した2020年度原田会長、
今年度の奥村会長、角会長、中村顧問はじめ11名。

こども発達支援課の方々の自己紹介の後、療育環境整備建築担当の荻原さんより計画の説明があり、その後質疑応答の時間となりました。

設計図を見ながらの説明によると、南部療育センターは三筑の旧南福岡特別支援学校の跡地に令和5年度着工を目指して建設予定であり、敷地面積が東部療育センターに比べて狭いことなどから、鉄筋コンクリート造4階建てになるとのことでした。

以前に提出した要望書に挙げられていた**“屋根付き駐車場”**や感染症予防のための**“自動水栓”**、通園バスのバック駐車による事故を未然に防ぐ対策として**“ロータリー式の屋根付き車路”**などが盛り込まれており、既存の療育センターを参考にしながらも、より良い療育環境を目指して善処されている様子が見受けられました。

質疑応答の時間では、あゆみ学園やにこにこ園に親子通園で通っている保護者を中心に、トイレやプールの更衣室のレイアウト、吸引するための医療機械を置く部屋や、痲癩時の切り替えのために新たに計画されたカームダウン室、安全確保のための避難経路についてなど計画や配置が療育の実態に即して適切であるのかといった質問や意見が活発になされました。

これに対して、こども発達支援課は、『**自動水栓での困りごとや、トイレのレイアウトに関するアイデアなどは使用者でない**と気付かないこともあり、**建設前の今であれば要望も取り入れやすい。**』と前向きに検討する姿勢を示してくださいました。

そこで、あゆみ学園に在籍する保護者から、家具や設備などの使い勝手や、**現状の施設より改善してほしい点などを要望書としてまとめ、療考会よりこども発達支援課へ再度提出させていただく**ことを確認し、閉会となりました。

後日、あゆみ学園にてアンケート調査が実施され、現在要望書のまとめ作業が行なわれています。

今回このような機会を作っていただいたこども発達支援課の方々に感謝申し上げます。